

# こ〜じのう



# 35

## 掲示板

- 特集1 千葉リハビリテーションセンターの支援普及事業プロジェクトの紹介
- 特集2 高次脳機能障害支援センター利用の流れ  
全国の動き・イベント・学会報告など

こ〜じのう掲示板は千葉県千葉リハビリテーションセンターや千葉県、全国の高次脳機能障害に関する情報を紹介する広報誌です

### 菜の花メッセージ

菜の花メッセージは、高次脳機能障害支援にかかわる方々から、応援メッセージを頂き掲載しております。



### 「はじめまして」

千葉県千葉リハビリテーションセンター

副センター長 菊地尚久



2017/4横浜市立大学より千葉リハの副センター長として着任されました。趣味は乗馬。

リハビリテーション科医師の菊地です。  
高次脳機能障害は以前には一般に聞き慣れない言葉でしたが、最近ではマスコミで報道されることも多く、だいぶ知られるようになってきました。医師にとっては以前から教科書に載っている障害で、決してマイナーな概念ではありません。高次脳機能障害の定義は「脳に起因する認知障害で失語、失行、失認、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などが含まれる。」となっています。医学生に教育していると「実は高次脳機能障害に興味があって」ということも多く、素晴らしいなと思いますが、「高次脳機能障害のどこに興味があるの?」と聞くと、多くの学生は認知障害の症状とその所在(脳のどこが原因か?)に興味があるようです。

私達リハビリテーション科の医師が普段対応する高次脳機能障害の方は認知障害で困っておられる方も多いのですが、社会生活で困るのは記憶障害や見当識障害などの認知障害に加えて脱抑制、感情失禁などの社会的行動障害、コミュニケーション障害、障害理解の欠如などになります。

私達はこれらの困っている方々に対して、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、ソーシャルワーカーなどリハビリテーションに関わる様々な職種の人たちと一緒に支援することにやりがいを感じています。この様にリハビリテーション科医の仕事は投薬、手術などを主とした仕事とは異なる部分もありますが、患者の困っていることを治すのが医師の使命なので、大変満足感を感じられる仕事だと思っています。この魅力を学生や若い医師に伝え、高次脳機能障害を専門とする医師を増やすことも進めたいと思います。

### 菊地尚久先生が携わっている学会紹介

#### 日本身体障害者補助犬学会学術大会

日本身体障害者補助犬学会は、補助犬(聴導犬・盲導犬・介助犬)の普及発展を願う学識経験者が集まり、平成17年に設立されました。第11回の学術大会は、「世界を翔る補助犬使用者-2020オリパラに向けて-」のテーマで空港での課題のテーマのひとつとして、成田空港に会場を設置して開催されます。菊地先生は第11回開催の大会長を勤めています。

第11回学術大会は、2018年10月6-7日成田空港第2ターミナル4階で開催予定です。



### 高次脳マッチド オフィスで発送準備

2017年10月に千葉リハに開設された『高次脳マッチドオフィス』では、千葉リハ内からいろいろな作業を切り出してもらい、マネージャーがスケジュールを組んでいます。3月からは、スタッフが2名体制で運営をしております。支援センターも、前号からこ〜じのう掲示板の発送準備をお願いしています。「マッチドオフィスは丁寧な仕事をしてあります」マネージャーいわく、印刷物を折って、封筒に入れる作業はとても丁寧。仕事を依頼するほうとしても、今後もマッチドでお願いしたいと思っています。



## information

### 第14回千葉懇話会

『高次脳機能障害リハビリテーションのすすめ方』

日時:2018年9月28日(金) 19:00-21:00 場所:千葉市民会館 小ホール

講師:原寛美氏

(医療法人社団敬仁会桔梗ヶ原病院/副院長/高次脳機能リハビリテーションセンター長)

参加費:無料

問合せ:千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援センター

Tel:043-291-1831/Fax:043-291-1847

### 『第5回手のひらの会』

高次脳機能障害千葉県内5家族会と支援者の集い

日時:2018年10月7日(日) 13:00-15:30

場所:千葉県千葉リハビリテーションセンター

申込・問合せ:県内の各家族会、または千葉リハ高次脳機能障害支援センター



### 編集後記

「灯台下暗し」ということもあり、今回は千葉リハの高次脳機能障害支援の紹介を特集してみました。千葉リハの取り組みの一端もお伝えできればうれし限りです。今号を編集中の現在、西日本豪雨災害が起き甚大な被害となりました。被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。1日も早く日常を取り戻せることを祈るばかりです。千葉では短い梅雨からいつの間にか猛暑の夏となりました。被災地をはじめ、全国の皆様が無事に乗り切ってください。被災地をはじめ、全国の皆様が無事に乗り切ってください。被災地をはじめ、全国の皆様が無事に乗り切ってください。(3日目)

西日本豪雨災害で被害を受けられた皆様、心からお見舞い申し上げます。テレビから流れる映像に心が痛みます。一日でも早く復興されることをお祈り申し上げます。今年は梅雨が短く、猛暑が続き、夏が終わるまで体力が持つか不安です。そんな時に手軽に涼みに行ける場所として映画館があります。私のお勧め映画は『私の人生なのに』。障害を扱う作品ですが、観た人の心のどこかに引っかかり、考えさせられます。障害受容のテーマもあり、地味な内容ですが深みがあり、いい作品です。イチオシは当事者が語る部分(Yも出演)。また千葉リハも取材協力しています。ぜひ、映画館へ足をお運びください。ただ今、全国で公開中です。(Y) 『私の人生なのに』知英/稲葉友出演 watashinojinsei.com/

## こ〜じのう 掲示板

2018.7 vol. 35

発行日 2018年7月30日

発行 (社福)千葉県身体障害者福祉事業団 千葉県千葉リハリハビリテーションセンター  
千葉市緑区澤田町1-45-2 043-291-1831(代)内198

発行責任者 高次脳機能障害支援センター センター長 小倉由紀

http://www.chiba-reha.jp/ ホームページからご覧いただけます



千葉リハビリテーションセンターは千葉県の委託を受けた県の支援拠点機関として高次脳機能障害支援に取り組んでいます。右の模式図は千葉リハ全体の支援体制を表しています。

**特集1**では、高次脳機能障害の理解を広め、当事者支援の方策を開発・普及することを目的とした「高次脳機能障害支援普及事業」のために活動する4つのプロジェクトを紹介します。

**特集2**では当事者・家族等への相談支援、地域支援などを担う「高次脳機能障害支援センター事業」の一部を利用の流れに沿って紹介します。

千葉リハ高次脳機能障害支援体制模式図



成人高次脳リハプロジェクト

成人の高次脳機能障害の方を対象としています。医師、心理士、ソーシャルワーカー、PT、OT、ST、看護、視能訓練士といった多職種メンバーで、高次脳機能障害の支援に役立つ患者支援や家族支援に取り組んでいます。また、高次脳機能障害の支援に携わるスタッフの教育にも力を入れています。

【主な取り組み】

- ・医療リハとしてのグループ訓練(写真右上)
- ・生活リハプログラムの取り組み
- ・健康管理のセルフマネジメント
- ・能力獲得に向けた支援
- ・家族講座
- ・自動車運転再開の評価・支援
- ・職員向け高次脳学習会(写真右下)



医療リハOTグループ訓練の様子



スタッフ向け学習会の様子

地域生活復帰支援プロジェクトは、医療、支援センター、更生園の職員11名から構成され、職種もPT、OT、心理士、現場の支援員など様々です。目的としては、高次脳機能障害支援普及事業の4本の柱の一端として、高次脳機能障害を持っている方々の地域生活支援と社会復帰支援の両方を対象にしています。まずは、当センター内で行っている生活バスや生活版ジョブコーチの取り組みなどを通し、地域での生活をより考えていくことが出来ればと考えています。

【主な取り組み】

- ・支援方法やツールの開発と普及(生活バス、生活版ジョブコーチ支援等)(写真右2枚)
- ・各種学会への研究発表
- ・アンケート調査と分析

生活バスを見ながらチェック



高次脳生活バス用紙

地域生活復帰支援プロジェクト

就労移行支援プロジェクト



カフェ輪駆開催の様子



就労支援機関向け研修会

就労・復職を希望する高次脳機能障害者が、就労・復職、あるいは職場定着(就労継続)するために必要な支援方法を探る目的としたプロジェクトです。医療施設、高次脳機能障害支援センター、マッチドオフィス、更生園のスタッフが連携して取り組んでいます。メンバーはPT、OT、ST、心理士、ソーシャルワーカー、支援コーディネーターで構成されています。

【主な取り組み】

- ・就労支援機関向け研修会(写真左下)
- ・就労生活に関する悩みを語る会開催(写真左上)(カフェ輪駆、ヤングカフェ)
- ・調査研究
- ・マッチドオフィス運営検討



学校訪問支援の様子

小児のプロジェクトは、医師、看護師、PT、OT、ST、心理士、SW(支援コーディネーター)の多職種で構成されています。高次脳機能障害のある子どもたちへの評価・訓練・社会復帰支援を行うと同時に、千葉県における拠点機関として、医療機関、福祉施設、学校等との連絡調整を図り、支援ネットワークを構築する事を目的に活動をしています。

【主な取り組み】

- ・グループ訓練
- ・学校教職員・地域支援との連携(写真左)
- ・家族支援および家族会活動への協力
- ・外部向け研修会
- ・運転免許取得に向けての相談支援の検討

小児高次脳リハプロジェクト

特集2では、千葉リハでご相談を受けてから、高次脳機能障害支援センターの利用までの流れと、利用者様のニーズが達成できるまでの様子をご紹介します。

## 高次脳機能障害支援センターとは？

千葉リハビリテーションセンター高次脳機能障害支援センターは、当事者の社会復帰・社会参加に向けての専門的かつ個別的支援を行う部署です。個別相談支援や集団活動を行い、必要に応じて地域に向くアウトリーチ支援を行っています。

また、家族支援、地域の支援機関支援も実施しています。高次脳機能障害支援センターの活動の多くは千葉リハ内部の医療・福祉部門や外部関係機関と連携しながら取り組んでいます。



支援センターのご案内パンフレット

### スタート

相談

ワンストップ!

総合相談受付

支援センター

面談

利用開始

復職

総合相談受付  
千葉リハビリテーションセンター  
総合相談室にて最初に  
相談内容をお伺いします。

#### ワンストップとは？

相談窓口がひとつになっていることです。内容に応じて対応する部署にお繋ぎします。



ニーズの聞き取り、状況確認などをするため、ご本人ご家族と一緒に千葉リハのスタッフが対面でお話を聞かせて頂きます

Aさんの場合  
家事がうまくできない



必要に応じて  
外来受診をして  
いただけます

総合相談室から、高次脳機能障害支援センターのソーシャルワーカーに引き継がれます。

#### 支援計画作成



相談者からの情報収集後、受診、評価、ケース会議などをして、支援方法を考えます



いつものやり方で家事(調理・掃除・洗濯など)をしてもらいます

支援方法が決まったら定期的に支援するヘルパーに徐々に引き継いでいきます。

ヘルパーに繋がります

#### 利用者様のご自宅訪問

高次脳機能障害支援センターのスタッフがご自宅に出向き、実際に家事をしているところを評価します。上手くいかない原因を探り、その方に適した代償手段を試し、どのような支援ができるか検討します。



ヘルパーさんと一緒に冷蔵庫の食材を確認します。



食材リストアップ表に書き込みます。



フローアップをします

#### 家事復活!

復職、家事ができることがゴールではなく、継続できることが大事です。支援センターでは、長く続けられるように支援をしていきます。



#### 社会適応をめざした活動参加



働くためのグループに参加し、模擬職場で作業を体験します。



作業体験後に作業を通してみられた自分の状態・必要な代償手段・サポーターについて皆で振り返ります。

集団活動を通じて、社会参加に必要な力を高めることを目指したプログラム展開をしていきます。ご本人のニーズを確認しながら次への活動をすすめるための支援を他機関と協力して行います。

#### 外部の就労支援機関との連携



職業センターや障害者就業・生活支援センターと連携して職場に向いて仕事内容などを確認し、ご本人の状態、必要な配慮等について話し合い復職に向けた準備をしていきます。

#### 復職!



定着支援もします

高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会 / 高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

毎年6月と2月に、全国の支援拠点機関が一堂に集まり、実績と事業計画を報告し、グループワークやシンポジウム、事例報告なども行っています。6月は国リハで、2月は都内で開催されます。今号の掲示板は6月に開催された会議を報告いたします。

高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会

2018.6.27  
10:00-12:00  
国リハ

6月とは思えない夏日の中、全国から140名を超える関係者が一堂に会し、高次脳機能障害支援の各地の取り組みと事業予定の報告を行いました。新たな支援拠点機関の設置の報告もあり、4ヶ所目の設置を目指す千葉県としては興味深い動きでした。質疑応答では、支援拠点機関の設置に関連して高次脳機能障害者の実態調査、データ更新の動きが問われましたが、国リハとして新たに組み込む予定はなくこれまでのデータの活用範囲とのことでした。なお、今回の全国会議は厚労省からの出席がない初めての事態となり、国リハおよび参加者の戸惑いの様子が垣間見られました。



国リハ

6/1 現在、全国で支援拠点機関104ヶ所(昨年度101)、支援コーディネーター380名(昨年度355)

高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

2018.6.27  
13:00-16:00  
国リハ

本会議では「社会的行動障害による社会参加困難事例に関する精神科医療機関調査「報告と」コミュニケーション支援ボードの有用性研究「報告がされました。その後、実績報告会(岐阜県、鳥取県)架空事例のグループ討論会が行われ、会議室いっぱいの参加者の熱心なディスカッションで暑い日がさらに暑かった一日でした。研究報告の中で、社会的行動障害に関し協力が欠かせない精神科医療の高次脳機能障害支援事業の理解や連携が十分ではない実態が明らかになりました。改善の必要性を感じ、どのように進めるべきか考えこんだ報告でした。鳥取県の実践報告の中で、長期間の経過を粘り強くあの手この手で探り出して支援を行った事例を紹介。まさに支援コーディネーターの鏡!と感心し、支援コーディネーターの役割を再認識することができました。

第10回2018春  
カフェ輪駆(リンク)開催

2018.5.19 11:00-13:50 千葉リハ 更生園



参加者21名

ちょっと雑談でもしてみませんか?

元の職場に戻って働いている方、新しい会社でこれまでとは違う仕事に就いた方、学校を卒業して初めて仕事に就いた方。更生園や支援センターの活動を終了して、頑張っている方。これらの方々に対象に開催した『カフェ輪駆』は、全員でポッチャをしてから食事(カレー)を食べ、皆さんのお話を聞く機会となりました。アンケートでは調理をしたかったとの感想も数件あり、一緒に作る食事作りは参加者の楽しみであることも知る機会となりました。

第55回日本リハビリテーション医学会学術総会

2018.6.28-7.1 福岡国際会議場



本学会では、多くの関連学会・研究会との合同企画が多数行われ、リハビリテーション医学・医療が、あらゆる分野で重要な役割を担っていることを再認識いたしました。患者さんの生活や活動に着目した各領域の先生方からのお話は、とても興味深いものでした。また、患者さんが地域で生活するための包括的ケアシステムの構築も話題でした。当センターからも多くの演題が話題となり、私も「教習所自主練習導入による高次脳機能障害者の運転再開支援」というテーマで発表してまいりました。教習所と連携して実施する「実車リハビリテーション」は、高次脳機能障害者に対する運転支援の新たな取り組みとして注目されています。引き続き、支援拠点として、安全な運転再開を支援していきたいと思っております。  
神経内科 赤坂

第18回千葉リハビリテーションセンター公開講座

ハイリハちばの活動  
～喫茶ぶら～

2018.7.21 13:00-16:00 千葉リハ大ホール他



移動販売の様子

酷暑の中、千葉リハ公開講座に、例年よりも多くの方々にいらしていただきました。講演、体験、展示、見学ツアーとともに公開講座の定番となった『喫茶ぶら』は、今年からハイリハちばは家族会の役員の方がお手伝いに入り、お店をオープンしました。当事者は7名が参加。途中、アナウンスしてもらったおかげなのか、お客さんがたくさんいらして、用意された席もぎゅうぎゅうになるほど。出張販売は今回で3回目。1年ぶりでしたが、お客さまへの対応は手馴れていました。販売終了後の反省会では「今年は暑かったのが氷が早く溶けてしまった」「来年はしっかり保冷する」「ホール係を作ったほうがよい」「メニューの見直し」などお客様目線の反省点が多くあがりました。全体的に回を追うごとに運営がスムーズになっています。お客さまからは「ホットコーヒーが凄く美味しかった」と、嬉しい言葉も頂きました。



喫茶ぶらの様子



支援センターの紹介ブース